資料－３

第 13 回 樋上委員

平成 17 年 8 月 22 日
PI 外環沿線会議 委員　樋上　寛

PI 外環沿線議論を総括しての意見

平成 14 年 6 月に発足した PI 外環沿線協議会、平成１７年１月からの PI 外環沿線会議まで、構想段階の議論を総括した意見は以下のとおりです。

● 外環の必要性について

① PI 外環沿線会議は、“ 協議会 2 年間のとりまとめで ” 残された課題「将来交通量予測」、「経済効果、費用対効果」「環境改善」などを含む国土交通省山本委員提出「外環の必要性」資料の検討を終え、構想段階における外環必要性の議論は終わりました。これらの資料は PI 方式よるものであり、委員各位の意見や検討結果を集約しており、今後の検討に際して有意義かつ貴重な資料と評価いたします。

② さらに外環の必要性議論を進めるには、具体的な計画を取り込んだ議論に入らないと外環整備の実態が把握できない部分があります。すなわち大深度地下シールドトンネルによる外環道整備と地上部街路計画の取り扱い、インターチェンジ設置による地域交通への影響、排気塔による大気汚染や振動など環境への影響、飲料水供給源となる地下水への影響などの検討すべき課題が残されています。

③ 国土交通省と東京都は、外環沿線自治体行政側の意見、有識者の意見を含む、地域住民側の意見を求め、外環整備に向けた必用性の是非を可及的速やかに決めることを希望いたします。ただ今後の検討をスムースに運ぶ上で、計画検討段階で社会的や地域的問題があると判断されれば、外環整備計画の中止も視野に入れておくことを前提としてもらいたい。

● その他

① 東京外かく環状道路の計画に関する技術専門委員会「必要性検討における技術的視野からの評価／とりまとめ」の提言を真摯にうけとめ、そのなかの今後の課題処理と検討の進め方の提言を実行してもらいたい。

② インターチェンジの設置、地上部街路計画の取り扱いは、地元の意向を踏まえて決めてもらいたい。

③ 環境悪化を補償する緑被率の向上などの公園整備や街路樹の整備、地下水系の破壊から守る対策など、地元の意見を踏まえた対策をお願いしたい。

④ 外環整備にいたる中長期にわたるスケジュールつくりをすすめ、地域住民の理解を得た上で、外かく環状道路の整備の “ ゴー・サイン ” が出されれば出来るだけ早く建設に着手できる手はずをお願いしたい。　　以上